
すべてを統べる眼

ゲジゲジまゆげ訳してゲジマユ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

すべてを統べる眼

【Nコード】

N9908Y

【作者名】

ゲジゲジまゆげ訳してゲジマユ

【あらすじ】

気が付いたら知らない部屋だった。

そしたら女神さまが出てきて俺は死んだって教えてくれた。

でも何の因果かまだ寿命が残っているから転生させてくれるそうだ。

行先は…NARUTOの世界でキャラは…サスケの双子の兄弟!?

ムリムリ！！！！なにその死亡フラグ満載のヤバイ行先は！？

え？チートOK？じゃあ行きます！

さあつて、原作崩壊＆ハーレム目指して頑張つてきまあす♪

（ハーレムはあくまでも目標です…作者の力量的な問題があるので
…orz）

第1話（前書き）

はじめまして^^

今までは読む専門だったのですが自分でも書いてみたくなったので
今回「すべてを統べる眼」を書かせていただきました

これは自分の妄想を文字にした自己満の小説になるので不快に感じ
る方が沢山おられると思います

ですので、いまこの前書きを読んでいて

『原作崩壊、ご都合主義、チート、ハーレム』といった要素がダメ
な人は読むのをやめることをお勧めします

されに今回が初めて小説を書く機会ですので文章的にもおかしいと
ころや、内容に矛盾がでてくるかもしれません

それを踏まえて、読んでくださいm(_____)m

以上を読んでも大丈夫だった方は本文をお読みください

少しでも面白い、と思っていただけたら幸いです

- - - - -
- - - - -
- - - - -

就職活動の合間の現実逃避として書いているものなので更新は2

3週間に1度が目安だと思ってください><

第1話

第1章

第1話

気づいたらあたり一面真っ白な空間にいた

ここはどこだ？ だれかいないのか？ どうしてこんなところに？
とか疑問は尽きないけどまずはやっぱり“お約束”からだよね！

「知らない天井だ…」

よし！とりあえず満足だ。さてとじゃあ俺についてだね…

俺は25歳のヲタリーマンだ。ただ見た目がヲタっぽくないらしく
ヲタ友達といたらよく『浮きまくってる』といわれるんだがね…

もちろんヲタを自称する以上好きなものは多々、どころかメチャク
チャある。

アニメ、ラノベ、マンガ、ギャルゲ、エロゲと買いまくる。そのせ
いで家の7割はゲームやマンガ、ラノベなんかで埋まっている。

ヲタでいると普通の人よりも金がかかる。そのため俺はヲタに目覚
めたときから死ぬほど勉強して一流大学、一流企業に就職して稼ぎ
まくってるんだぜ！

とまあそれは置いて、中でも一番のお気に入りにはNARUTO

だ！

俺は出来ることならあの世界に入りたいと何度妄想したことか！

『ねえ．．．．．い．．．．．』

特にうちは一族だね、あの写輪眼のチートさ。術のコピーとかマジキチじゃね？

『．．．．．ち．．．．．げ．．．．．』

修行して会得した術を見ただけでコピーするとか俺がされたら確実に忍びをやめるよ本当に。

『．．．．．こ．．．．．を．．．．．い』

ってかザブサとかよく力カシと忍術合戦しようとか思うよなあ

千の技をコピーしたってことは自分の術もコピーされるってのと同じ義語だと思うんだけどねえ…

『．．．いい．．．．．に．．．．．しな．．．．．』

俺なら修行もせずにマネされるのは我慢できないねえ。

『いい加減こっちに気づけええ！！！！』

おお！？びつくりしたぜ。

ん？それよりもこの人は一体どこから来たんだ？さっき周りを見たときは俺一人だったのに

『ちよつと！気づいたのになんで無視を続けるのよ！』

「ああすいません。ちよつとビックリしたので固まってました」

よく見たら何だこのお姉さん…ジャージにボツサボサの髪の毛のスッピンだYO！

つとちよつとおかしくなったな、危ない危ない。

まあスッピンでもメチャクチャ綺麗なんだけどね

『で、現実逃避はもういいかな？』

「あ、はい。まだ途中ですが一応大丈夫です。」

『そうかい。なら今の状況を説明したほうがいいよね？』

「お願いします」

『了解。じゃあまず私のことからだね。私はここで門番みたいなことをしてるわ』

「はあ…」

『とりあえず最後まで聞きなつて。ね？』

なんたる、すつげー子供扱いされてるような気がするな、、俺だ
って立派な社会人なんだぞ!?

俺がそんなことを考えててもお姉さんはお構いなく喋ってる。

『それでこの空間からについてだね。ここは君たち風に言うなら
“常世”だよ』

「あのお…」

『ん?なあに?』

「常世って確か仏教用語ですよね?」

『お、正解!意外に知ってるもんだねえもっと君たちって宗教には
無関心かと思ってたのに』

「つまり…ここってもしかして!?’

『そ、一種の死後の世界ね。であたしはここでその管理役として来
てるの。一応は神様の分類らしいよお』

「死んじやったんだ…俺。ってか神様なのに格好がものっそいこと
になってますけどね」

『いやあ、ここって基本はあたししかいないしもう100年以上一
人だとお洒落や化粧とかが面倒でねえ』

こりゃまた本音をポンポンいう神様だねえ…

『と、話がそれたけど…君がここにすることが逆に問題なんだよね』

「え？」

『いやあ、実はあなた、まだ寿命が残ってるのよ』

「え！？じゃ、じゃあなんでここにいますか！？」

『そこなのよねえ。あなたの死因って車に轢かれて、になるんだけど記憶ある？』

「…いえ。なんで死んだのか今知りました。」

『そっかあ。あなたは道路にいた子供を助けて死んじやったのよ。』

「そうなんですか…」

『ええ、あたしもここに人が来たのは200年ぶりぐらいだからびっくりしちゃってさあ』

「あの…」

『どうしたの？』

「その子供はどうなりました？」

『擦り傷程度で大きなケガはないわね』

「よかった」

『え？なんでよ』

「だって子供は無事なんですよね？」

『ええ』

「なら死んだだけのことはあります。俺の将来とその子の将来ならたぶんその子の方が大きいと思おうんで。」

『……………よし！合格！！』

「え？」

『その心意気に感動したわ！代わりと言っちゃなんだけど残りの人生分として転生させてあげるわ』

「もし不合格ならどうなってたんですか？」

『寿命がくるまで一人でここで生活してもらっわ』

「よかったあ…」

こんな何もないない真っ白な空間であと50年も60年も過ごしたら絶対に精神がやられるのが分かる。。。

『じゃあ、転生についてなんか希望とかあるかしら？』

「いくつまでならいいですか？」

『とりあえず言ってみなさい。あんまり多いのはダメだけど1ケタまでならあたしの権限でなんとかできるしね』

「じゃあ、まずNARUTOの世界に行きたいです。もちろん他に転生者はいないっていうのが条件です。立場はサスケの双子で、あと万華鏡写輪眼のリスクなしでの使用可能に、あと別天神「あまのうけがみ」の会得、穢土転生のうちはマダラのように輪廻眼に変えられるようにしてください」

『NARUTOかあ。いいよねえ。あたしも好きなのよあ、面白いしねえ。で願いはそれでいいの?』

「いえ、あとチャクラの量を尾獣並みにして欲しいです」

『分かったわ。ただしその代わりに能力に制限を掛けさせて貰うわ』

「制限?」

『ええ。よくある2次小説のパターンだと生まれてからすぐ使えるってが多いわよね。』

「ええ、そうですね」

2次小説ってなんでそんなこと知ってるんだ?さっきもNARUTOを知ってるみたいだし…もしかして神様ってマンガやアニメが好きなのか?つと説明を聞かなきゃな

『だからあなたにはその能力を使えるようになるまである程度の修行時間が必要にするわ』

「具体的には？」

『5万時間ね。』

「こゝ、5万時間ですか…それってどれくらいかかるものなんですか？」

『飲まず食わず不眠不休で24時間ずっと修行してほぼ6年掛かるわ。だいたい普通に修行して16〜18歳ってところね。イタチ見たいな天才でも12歳ごろまで掛かるわ。そのかわり使いこなせば強いっていうかチートの種類に入っちゃうんだからある程度年齢が掛かるのは能力のデメリットとも思いなさい。』

「まあうちはなら普通でも相当強いはずだな。分かりました。それでお願いします。」

『じゃあ以上でいいわね？転生さえるわよ？』

「あ、容姿とか決めてなかった！」

『サスケの双子なんだから髪の毛の色違いでいいでしょ？』

「ってそうでしたね。…いえ！2卵性でお願いします！」

『へえ、なんでか聞いてもいい？』

「はい。まずは俺とサスケの才能の違いです。」

『といつて…』

「俺は、まあ輪廻眼は別としてサスケよりも遥かにチートな能力がありますよね？それなのに1卵性だったら俺とサスケが常に比較されてサスケが余計なプレッシャーに感じて潰れたら困りますから。」

『なるほどね。じゃあどんな風にする？』

「そうですね…じゃあうちは一族なんで黒髪黒眼に顔は…波風ミナトに似せてください。」

『でも顔が似てたら周りになにか言われないかしら？』

「黒髪黒眼なら印象が違うから、まず分からないと思いますよ？それに最悪の時は幻術でなんとかしますし」

『そ、そう。じゃあこれで良いわね？』

「はい。もう大丈夫です」

『それじゃあ今度は天寿を全うしてね。いつてらっしゃい』

「はい！ありがとうございます！！」

こうして俺は意識を失った。

でも途中で神様がNARUTOのマンガを持ってるのに気づいた。

しかも単行本ではなく薄いのに高価な夏と冬にしか売ってないあれだ…orz

しかもなんかタイトルにカカシ×イルk、、ゲフンゲフン なんでもない

本当に大丈夫なのかと心配になったのが最後の記憶だった

第1話（後書き）

ここまで読んでいただいてありがとうございます

さて原作知識に関してなんですが基本は2011年11月まで発行された週刊少年ジャンプ

という設定にしています（途中でもしかしたら変わる恐れがあります）

あと、ハーレムに関してですが。。。もし！書くとしたら「イノ」と「ヒナタ」は出そうと思っています

もしご希望のキャラクターがありましたら感想やメッセージで教えてください>>

極力絡めていきたいと思っています

今は転生してからアカデミー入学までを書いていますので入学編を投稿するまでに要望があったものはアカデミー編から絡めて行こうと思います

それではまた次の更新でお目にかかりたいと思っています…

文章力や内容の質upにつなげたいと思ってるので厚かましいですが評価や感想、ご指摘など頂けると助かりますm（　　）m

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9908y/>

すべてを統べる眼

2011年11月29日22時48分発行